

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

茂原市長 市原 淳

市町村名 (市町村コード)	茂原市 (122106)
地域名 (地域内農業集落名)	立木地区 (立木)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 7 年 7 月 5 日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

地域の主たる農業者は60代以上と高齢化が進み、また、その後継者がなく深刻な問題となっている。継げない理由は主として「農機具の老朽化による今後の過大投資」である。そのため地域内で新たな農業法人等の立ち上げや新規参入者の促進を検討していく必要がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域内外から農地を利用する者を確保し、農業法人を立ち上げる等、地域全体で担い手を支えられるよう必要な条件の整備を実施する。水稻と施設野菜また、水稻と果樹や露地野菜等地区特産物を生み出し、地域の人々と農業法人が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。主な作物:水稻、施設野菜、果物等

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	80.7 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	80.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.5 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。当地区においては鳥獣被害が多く、一部保全管理区域にて捕獲等の対策、およびタケノコ、野ぶき、みょうが等の農産物収穫地として整備していく。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。担い手が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進める事が出来るよう、機構を通じて担い手への貸付けを進めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
農業の生産性の向上を図るため、農地の集積を積極的に実施する。担い手や新規就農者が耕作しやすいように、必要に応じて基盤整備事業の活用を検討することも視野に入れていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新規就農の促進について、将来的な担い手の育成・確保に向け、国や県その他各種事業を活用し、新規就農時の経営負担軽減を図れるように担い手へ促していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農協等の機械や施設を積極的に活用していく。また、農業支援サービス事業者の育成を行う。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input checked="" type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①地域による鳥獣害対策(侵入防止柵や檻の設置状況)や捕獲体制の構築等に取り組む。
- ④地域の労働力を使いビニールハウス等施設野菜を促進し、地域特産物を作る。
- ⑤地域の特徴を生かし、貴重種果実を栽培し特産品とする。
- ⑦定期的な草刈り等をしながら保全管理に取り組む。